



学校通信

平成30年度 第10号
平成31年2月1日
練馬区立開進第三小学校
校長 岡部 良美

『よいところみつけ名人になろう』から見る開三小の子供の成長

校長 岡部 良美

今年度の4月6日の始業式・入学式の日、私が子供たちに話したことです。4月の学校通信を思い出した方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

開三小の1年間のめあては、みんなが『よいところみつけ名人』になることです。この意味は、「自分のよいところ」も「友達のよいところ」も見付ける名人のことです。一日必ず1つ、自分のよいところ、できたこと、頑張ったこと、そして、友達のよいところ、頑張っているところ、やさしくしている・してくれたところなどを見付けましょう。

この1年間の取組から振り返ってみたいと思います。

☆各学級では学級担任の創意工夫のもと、子供たちが共有する取組

- ・ 教室に「よいところみつけコーナー」を設けて、子供たちが見つけたよいところをミニカードに書いて貼る。カードでいっぱい教室があります。
- ・ 帰りの会で、今日の1日の自分や友達のよいところを発表する。

☆学習活動における取組

- ・ 教師が子供のよいところを褒めることを第一とする。
- ・ 子供同士が話し合う活動を設け、互いのよさを知る、合意形成の場とする。
- ・ 子供が学習したことを振り返り、学びを通じた自分のよさを自覚する。

☆児童代表委員会による『よいところみつけ名人カード』キャンペーンの取組

11月19日から28日までの期間で、全校で2,560個のよいところが見つかりました。子供たちの振り返りを一部紹介します。(原文)

「よいところがいっぱいあって、うれしかった。」(1年)

「わたしが、いちばんたすかったのは、きゅうしょくのときにおさらをかたづけるのを手つだってくれたことです。うれしいきもちになりました。」(2年)

「いろいろな人をおかんさつしたら、いろいろないいことをしている人がいっぱいいて、まねしたいなと思いました。」(3年)

「よく注意して見ると、みんないいこと、優しいことをしてくれていて、これから、私もみんなにありがとうと思われることをしたいなと思いました。」(4年)

「人のいいところを見つけるのはとても楽しいなと感じた。このよいところみつけ週間が終わっても、友達のよいところをたくさん見つけていこうと思う。」(5年)

「当たり前に見ていたみんなを、少しちがう視点から見ると、多くの人たちが役立つことをしていた。」(6年)

☆子供たちへのアンケート調査(12月)における肯定的評価

- ・ 自分のよいところをわかっている。(77%)
- ・ 友達のよいところを見つけられる。(83%)
- ・ 友達は自分のよいところを認めてくれている。(78%)
- ・ 家の人や先生は自分のよいところを認めてくれている。(90%)
- ・ 先生は自分のよいところを認めてくれている。(83%)



4月から、『子供一人ひとりに誇りと自信をもたせる』ことを学校経営の核として取り組んできました。子供が自分のよさを知り、友達を認める心地よさを感じ、実行につながってきています。『しか』で見ずに、『なら』で見る。これは、大先輩、元開三小教員の方の話です。「○○しかできない→○○ならできる」。見方の転換を大切に、『よいところみつけ名人』を継続・発展させていきます。